



# KTCC NEWS



22号  
2021年10月

## 受け入れ企業様インタビュー 徳島県D社

2017年よりお付き合いのある徳島県D社に、実習生受け入れに関するインタビューを行いました。主にお話をお伺いしたのは、生産部主任Tさんです。D社には、プラスチック成形の技術を学ぶベトナム出身の女性5名が在籍。入国待ちの2名が入社する日を皆が心待ちにしています。

新しい風が吹いた



「日本人と違い手間がかかるのでは？」と考える者も多く、初めての外国人材受入を決めた当初は、前向きではない社員が少なからずいました。現場からは、「どう対応したらいいのか分からない」という声があがってきたというのが正直なところ。うまく伝わらないといった問題も発生。そこで私たちは、様々な策を考えました。例えば、次のような試みです。

- 一見非効率そうだが、何が分からないのかを後回しにせず、その場で都度確認しながら問題を解決していく。
- 「意図を汲み取って欲しい」というのは日本人独特の感性と自覚し、物事ははっきり伝えることを意識。

積み重ねの結果、実習生との強い信頼関係が生まれたように思います。今では全ての社員が、はるばる海外から来てくれた彼女たちのことを大切に思っています。社員が一致団結するようになり、職場の雰囲気も良くなりました。良いサイクルが生まれ、まさに新しい風が吹いたと実感しています。

日本語を学んでほしい。でもまだ道なかなです。



初期の実習生は、お互いライバル意識を持って日本語学習に励んでいました。私のところへ来て質問したり、会話をしたりと、とても積極的でした。今の実習生にはベトナム人の先輩がいるため、日本人とのやり取りが減ってしまったように思います。先輩が主体になるのではなく、あくまで日本人が教えて、先輩が細かいところをサポートするという流れを作ることが日本語力向上には重要だと感じています。

日本語に関わる機会を増やすために、毎日行っても良いから日記を書くことを提案したことがあります。その日記に日本人がコメントをつけ、それをきっかけとして会話をするというもの。最初は上手いっていましたが、少しずつ実習生のやる気が無くなり、今や書くことすらなくなりました。今やまだやり方を模索しているところ。また、まだやり方を模索しているところ。また、まだやり方を模索しているところ。

外国人だからと壁を作らないで!



パートさんが着付けてくれた浴衣を着ての花火大会。私の実家での着付け体験。彼女たちも大喜びで、そんな姿に私も幸せな気持ちになりました。また、コロナ禍前は食べ放題に連れて行くことが定番コースでした。華奢な体に似合わない食欲で思いっきり食べる姿に、若さを感じたものです。

実習生から教わることや元気をもらうことも多く、その存在は日本人にも良い影響を与えています。覚悟を決めて日本へ来ていた彼女たちを企業側もしっかりと受け止める必要があります。決して壁を作らず、歩み寄っていく姿勢が大切です。

インタビュー中のT主任のお言葉の端々から、厳しくも温かく見守って下さっている様子がうかがえました。企業様の実習生への思いに伝えられるよう、我々監理団体も身の引き締まる思いです。インタビューへのご協力ありがとうございました。



寮の仲間と協力し美味しい料理を作ります!

社内報で実習生の話題を取り上げて頂きました

## ありがとう作文コンクール佳作入賞!



鳴門工場の技能実習生2期生、3期生が入賞! テーマは「感謝」

## 入国再開に備えて 待機実習生と面談しました



当組合では、入国制限により母国での待機を余儀なくされている実習生(以下待機実習生)とのオンライン面談を、企業様を交えて定期的に行っています。本来であればとくに来日し、日本語を学びながら実習に励んでいるはずだった彼らです。一時的に働いていない者、コロナで経済が悪化し働かなくても働けない者、現状は様々といえます。皆様に渡航できないことを心配していますが、組合から連絡をすると少しホッとした表情を見せてくれます。

ある日の面談では、待機実習生の近況をたずねるほか、日本語学習の進捗確認を行いました。実習に向けて彼らが今やれることは、

## サポートスタッフのつがやき 記憶に残る人間性

以前実習生サポートを担当していたA社を、7年ぶりに訪問しました。久しぶりのことに私は、初めての時にも似た緊張を感じていました。その緊張がほぐれないまま事務所の扉を開けると、皆さんの挨拶の中から「〇〇さん」と私の名を呼ぶ懐かしい声が聞こえてきました。声の主は、当時よくお会いしていた担当窓口のMさんでした。マスクを着用していたにもかかわらず私だと気付いていただいたことが嬉しく、その瞬間緊張は安堵へと変わりました。Mさんとコミュニケーションを密にすることによって多くの時間を共有しました。当時の濃密な記憶が呼び起され、懐かしい思いでした。

日本語を勉強すること。待機期間が長くなれば長くなるほどモチベーションを保つのが難しくなり、勉強も疎かになりがちです。仕方のないこととはいえ、大変な「ピンチ」であることは間違いありません。長い待機期間を「学びのチャンス」に変えてあげることが出来ないうるか?この面談は、彼らを励まし、やる気を高め、「ピンチをチャンス」に変える場でもあると私たちは考えています。



大阪はどこでしょう。

私は現在も複数の企業でサポート業務を行っており、多くの実習生を担当しています。数年後、日本が海外のどこかでふいに彼らと再会する... お互いにたちまち記憶がよみがえり、Mさんと再会した時と同じような気持ちに浸れるでしょう。彼らの記憶に残るような人間でありたい。そのためには、彼らと、濃密な時間を過ごさなければなりません。つらく苦しいこともあるでしょう。でも、そのときのために今自分にできるすべての力を出し切り、企業と実習生双方と向き合いながらサポートしていきたいと思っております。



~ 世界の人々に日本を好きになってもらう ~

**Kansai Technical Cooperation Center**  
協同組合関西技術協力センター  
一般監理団体/登録支援機関

協同組合関西技術協力センターは、2002年に設立された外国人技能実習制度における受け入れ監理団体です。2019年には特定技能制度における支援機関として登録されました。教育・各種サポートは、受け入れ企業様に好評を頂いております。「日本企業と諸外国との架け橋になりたい」「日本で成長した若者を世界中に増やしたい」そのような想いで日々活動しております。「何の知識もないけれど...」「実習生と直接話してみたい」等々、お気軽にお問い合わせください。

発行・お問い合わせ ▶ 大阪本部 広報課 TEL:06-6333-2373 (平日9時~18時)

大阪本部 〒561-0832 大阪府豊中市庄内西町1丁目3番15号  
名古屋事務所 〒453-0013 愛知県名古屋市中村区亀島2丁目14番10号フジオビルディング4F  
広島事務所 〒730-0051 広島県広島市中区大手町3丁目8番1号 大手町中央ビル10F

本部外観